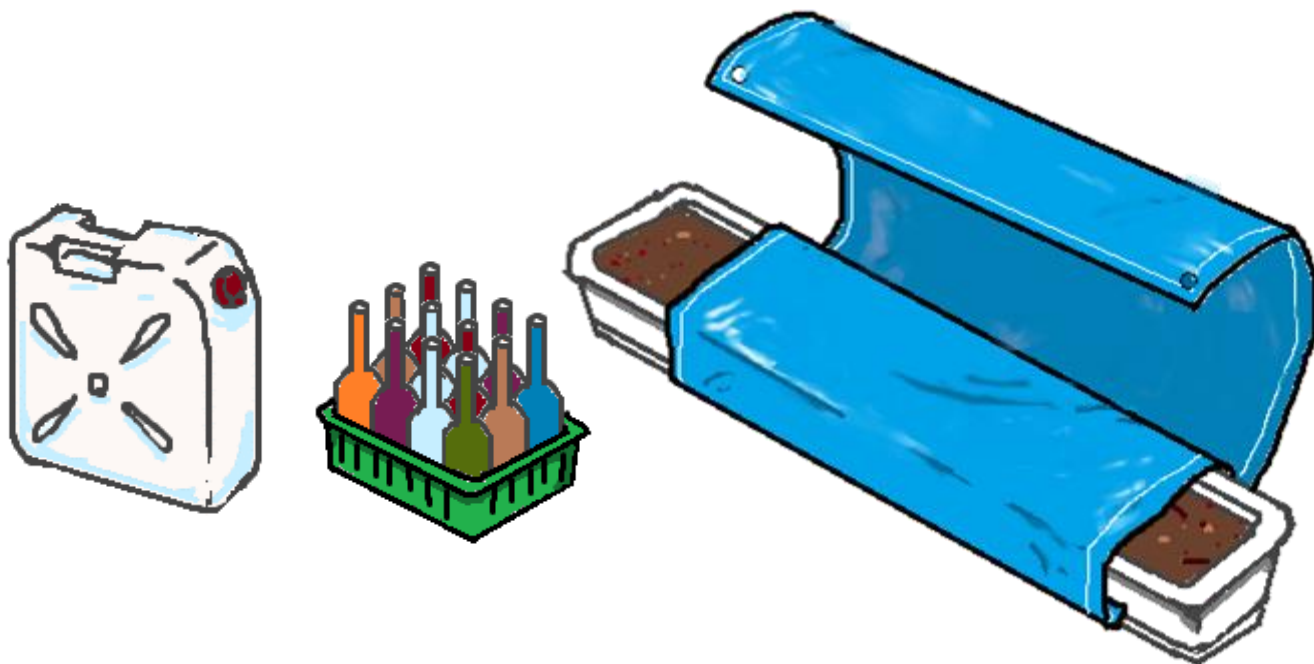


簡易水防工法

簡易水防工法とは、あくまでも小規模な水災で、水深の浅い初期の段階で行う対策のことをいい、宅内の雨水排水機能を超える大雨時等に施し、床下浸水等を防ぐ工法です。

①プランター等を用いた工法

ご家庭にあるプランターやポリタンクをレジャーシート等に包んで使用する。



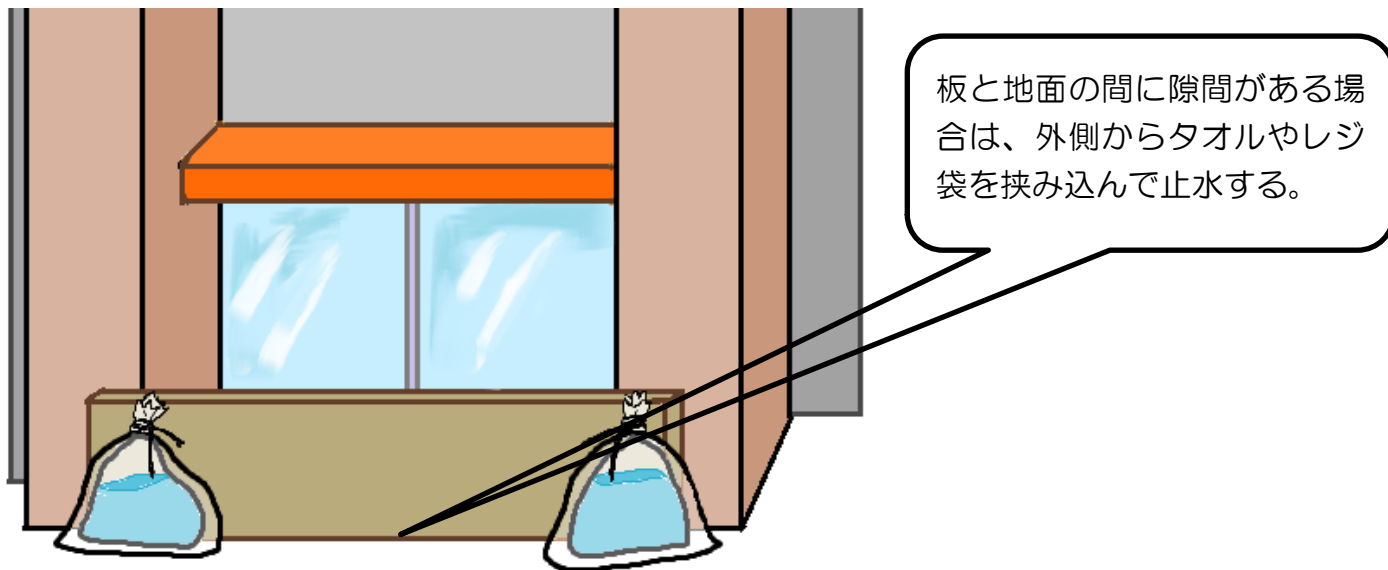
②ゴミ袋とダンボール箱を使用した工法（水のう工法）

30ℓから40ℓのゴミ袋を2枚重ねにして水（2/3程度）を入れ、ダンボール箱に入れて使用する。



③止水板等を用いた工法

板などを水のう又は土のうにより設置する。



土のうによる工法

市では、洪水被害等を軽減するため約 2,000 袋の土のうを準備し、要望があれば配布しています。※原則、市役所受け取りで、使用後は自己処理となります。

土のうによる適切な水防工法は、簡易水防工法より止水効果が高いため、傾斜地等に用いることで宅地内及び地区内への浸水を防ぐことができます。

しかし、設置及び撤去に時間と人力を要し、設置に伴い他所への被害が生じる可能性があるため設置後は注視が必要です。

①土のう作り方



1.砂をスコップ7～8杯、袋の約7割（赤線）まで入れる。25kg前後



2.一人又は二人で砂を入れる。
・底をくりぬいたバケツや缶を用いると作業しやすい。
また、予め下にシートを敷くと汚れ防止になる。

※作業をするときは、必ず手袋を着用しましょう。





3.袋の口をしっかりと締める。



4.親指を巻き込みながら紐を2周巻く。



5.親指と袋の隙間に、紐を上から下へと通す。



6.通した紐を下に向かって締める。



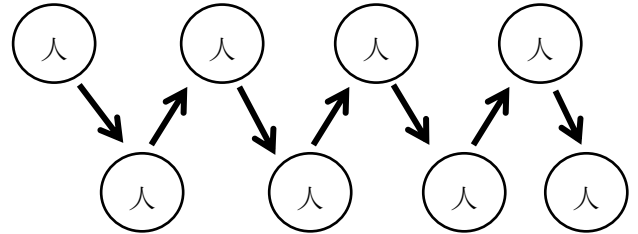
7.紐を上にあげて完成

8.袋の締め口と底を持って運搬する。


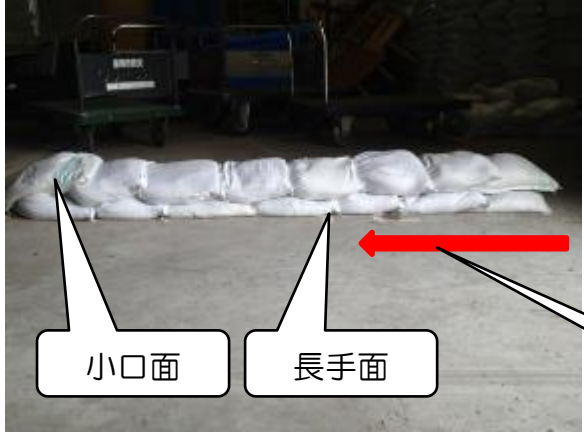
※ 土のう袋を持ち上げるときは、膝を使い、
腰に負担を掛けないように

バケツリレーは、右図のように行うと身体への負担が軽減される。

その際、荷物の重量について「重たい」とか「軽い」等の声を掛け合うとよい。



②積土のう工法（住宅地向け）

	<p>積土のうでは、土のう袋の長い面を長手、短い面を小口という。</p> <p>長手</p> <p>小口</p>
	<p>1.袋の口を雨水の下流向けて、隙間の無いよう踏みつけながら並べていく。</p> <p>2.二段目以降は下段の重なりの間に並べていく。</p> <p>3.両サイドは崩れ防止のため、小口積みで形を整える。</p> <p>雨水の流れ</p> <p>小口面</p> <p>長手面</p>

③改良積土のう工法（住宅地向け）



②の積土のう工法にブルーシート等を施した工法

1.シートの中央付近に土のうを積む



3.シートを折り返す



4.風でシートが広がらないよう土のうを再度積む

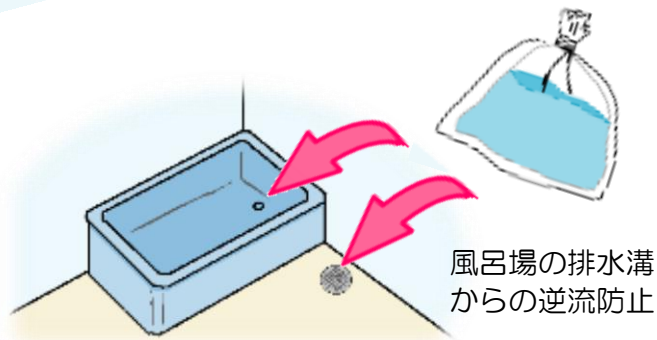
※止水効果が非常に高く、砂の流出も防げる。

排水管等からの漫水を防ぐ方法

洪水時には、洗濯機やお風呂場の排水口
やトイレなど思わぬところから下水が
逆流することがあります。
排水溝やトイレを水のう
で防ぎましょう



簡易水のう



平常時からの備え

大雨、ゲリラ豪雨等による水害を予防、軽減するため、平常時からの排水施設等の清掃が必要です。

①自宅付近の道路側溝の清掃



グレーチングといい、道路上の雨水を排水する施設です。

落ち葉等が詰まっていると機能を発揮しません。



最近では、こうした小さな穴の物もあります。

②カーステップやプランターの撤去



道路には雨水がスムーズに流れるよう傾斜がついています。

障害物により雨水が排水施設に流れないため、雨天時は外しましょう。

③宅地内の雨水排水施設の管理

宅地内の雨水枡の整備、障害物の撤去等、雨水排水の機能の促進に努めましょう。

※ ベランダのゴミ詰まりによる浸水にも注意しましょう。